



札幌市に隣接する当別町に広がる亜麻畑。満開の花畑で記念撮影する「亜麻プロジェクト」の皆さん。写真前列左から、内藤さん、大塚さん、濱田さん。亜麻の里→<http://www.amanosato.jp/> 亜麻公社→<http://www.amakousya.co.jp/>

北海道・当別町で、亜麻栽培の復活に挑戦し、新連携や農商工連携による商品開発、亜麻まつりが観光資源となるなど、地域おこしを進める「北海道亜麻ルネッサンスプロジェクト」を紹介します。

亜麻は、繊維原料として分があることも分かります。二〇〇四年には商品化の目処が立ち、国内唯一の亜麻加工業者として（株）亜麻公社を設立しました。その後、北海道同友会札幌支部農業経営部会・産学官連携研究会（HOPPE）で出会った三社が亜麻事業の構想を膨らませていきました。無農薬栽培による亜麻の原材料供給は当別町の（株）大塚農場、種子から亜麻仁油の抽出および製品化は（株）亜麻公社、販路拡大は（株）ウイズユー・コーポレーション。三社がそれぞれの得意分野でのノウハウを持ち寄り連携を構築しました。商品品の管理では北海道立工業試験場、マーケティング面では小樽商科大学のア

「突然、内藤君が訪ねて来て何か良く分からんけど、五時間くらい亜麻のことを熱くしゃべっていった。俺も自分の若いころ思い出したついでに、まあこの若者の夢にの

第一次産業を地域再生の光に

つてやろうかと。たまたま一反千アールだけ土地も空いていたので」と、大塚利明さん（株）大塚農場はそ

栽培を始めてからは、花が満開に咲いたときの景観の美しさと、黄金色に実った実、かつて見たこともな

いほどの夜盗虫の異常発生、台風のととき実が全部飛んでしまうなど、喜びと驚きの連続でした。現在まで亜麻事業が継続しているのは奇跡的なことなのです。二〇〇七年には、大塚社長が中心となって当別町の一〇戸の農家が当別町亜麻生産組合を発足させ、亜麻の生産面積は八ヘクタールまで拡大しています。

「薄紫色の亜麻の花が畑一面に広がる六月下旬から七月上旬は、とてもきれいです。八月には種子ができ、その亜麻の種子から抽出した亜麻仁油は、古代ギリシヤ時代から健康によいものとして飲用され、中国では漢方薬の材料として使用されるなど、高い保健機能が知られています。最近の研究では、血圧をさらさらに下げ、皮膚につやを与え、生活習慣病の予防と改善効果、アレルギー抑制効果があることも明らかになってきています。

濱田社長は大塚社長や橋本社長との出会いから、亜麻の魅力を伝えるために、当別町は、人口二万九千

「亜麻の里」復活を目指す 北海道亜麻ルネッサンスプロジェクト

- (株)亜麻公社 代表取締役 橋本 眞一氏 (株)北海道技術コンサルタント代表取締役 執行役員 内藤 大輔氏 (株)北国生活社代表取締役
- (株)ウイズユー・コーポレーション 代表取締役 濱田 強氏
- (株)大塚農場 代表取締役 大塚 利明氏



↑ 亜麻公社の当別搾油工場 亜麻の種子から抽出した亜麻仁油のサプリメント ↓

販路拡大に向けて
薄紫色の亜麻の花が畑一面に広がる六月下旬から七月上旬は、とてもきれいです。八月には種子ができ、その亜麻の種子から抽出した亜麻仁油は、古代ギリシヤ時代から健康によいものとして飲用され、中国では漢方薬の材料として使用されるなど、高い保健機能が知られています。最近の研究では、血圧をさらさらに下げ、皮膚につやを与え、生活習慣病の予防と改善効果、アレルギー抑制効果があることも明らかになってきています。

農商工連携などのプロジェクトは、販売段階でつまづきやすいとも言われます。北海道亜麻ルネッサンスプロジェクトは、亜麻の生産者、製品メーカー、販売者の三者間で取引が発生するだけでなく、製品がお客様の手に渡ってほしいビジネスとして成立するということを強く意識して、マーケティングに力を入れてきました。

「亜麻仁油サプリメントは、商品として世に出して一年間で売れたのはわずか数百個。二〇〇七年から、既存の流通網に頼らず、ダイレクトに消費者へ商品価値を訴える方向に転換し取り多様なメディアに取り上げられ、お客様から高い評価も得てきました。今では販売量が二万個以上に伸びています。

「亜麻の歴史、亜麻繊維の特長、亜麻仁油の特長、一八八五年当時の亜麻工場の写真などを展示しています。そのほか、後世に伝えたい言い伝えや生活史などのデジタル絵本の原画、亜麻の茎を焼いた灰を糊染にした陶器なども飾っています。また、毎年五十〜百点に及ぶ応募がある亜麻フォトコンテストも開催し、薄紫

色の亜麻畑の中にたくさん人が入り、思い思いに写真撮っています。 昨年は「亜麻色の髪の乙女」カラオケコンテストも行いました。審査委員長は、本家のウィレックスンガーのリードボーカル清水道夫さんです。会場と亜麻畑を往復する循環バスを用意し、亜麻畑見学も実施。きれいな風景を楽しまれる方ぜひいらしてください。

「農商工連携などのプロジェクトは、販売段階でつまづきやすいとも言われます。北海道亜麻ルネッサンスプロジェクトは、亜麻の生産者、製品メーカー、販売者の三者間で取引が発生するだけでなく、製品がお客様の手に渡ってほしいビジネスとして成立するということを強く意識して、マーケティングに力を入れてきました。

「亜麻仁油サプリメントは、商品として世に出して一年間で売れたのはわずか数百個。二〇〇七年から、既存の流通網に頼らず、ダイレクトに消費者へ商品価値を訴える方向に転換し取り多様なメディアに取り上げられ、お客様から高い評価も得てきました。今では販売量が二万個以上に伸びています。

「亜麻の歴史、亜麻繊維の特長、亜麻仁油の特長、一八八五年当時の亜麻工場の写真などを展示しています。そのほか、後世に伝えたい言い伝えや生活史などのデジタル絵本の原画、亜麻の茎を焼いた灰を糊染にした陶器なども飾っています。また、毎年五十〜百点に及ぶ応募がある亜麻フォトコンテストも開催し、薄紫



「亜麻の歴史、亜麻繊維の特長、亜麻仁油の特長、一八八五年当時の亜麻工場の写真などを展示しています。そのほか、後世に伝えたい言い伝えや生活史などのデジタル絵本の原画、亜麻の茎を焼いた灰を糊染にした陶器なども飾っています。また、毎年五十〜百点に及ぶ応募がある亜麻フォトコンテストも開催し、薄紫

色の亜麻畑の中にたくさん人が入り、思い思いに写真撮っています。 昨年は「亜麻色の髪の乙女」カラオケコンテストも行いました。審査委員長は、本家のウィレックスンガーのリードボーカル清水道夫さんです。会場と亜麻畑を往復する循環バスを用意し、亜麻畑見学も実施。きれいな風景を楽しまれる方ぜひいらしてください。